

第 1178 回放送分『整形外科疾患』5 回目

ゲスト：田邊 史ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「整形外科疾患」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 田邊 史（たなべ ふみと）ドクターです。
田邊さん、最終週の今日もよろしくお願いいたします。

田邊史Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、骨粗鬆症性椎体圧迫骨折についてお話いただきました。
80 代以上の高齢の女性に多く、加齢や閉経などによる骨粗鬆症が原因で
転倒や草むしり、さらには自分でも気付かないまま、
いつのまにか骨折していることもあるというお話でした。
治療はコルセットや痛み止めですが、そもそもの原因となっている
骨粗鬆症の治療をすることが大切ということでした。
今日は何についてお話しいただけますか？

田邊史Dr.

今日は、非常に稀ですが命にかかわる危険な腰痛についてお伝えいたします。

二見いすず

命にかかわる腰痛ですね。それは十分に気をつけたいですね。
早速ですが、どのような場合に気をつけたらいいのでしょうか？

田邊史Dr.

まずは腫瘍、がんです。これは安静時の腰痛が特徴で、特に夜痛みます。
横になると血の流れがゆっくりとなり、
腫瘍の中の圧が上がることも原因の一つと言われています。
そしてもう一つは感染です。

二見いすず

感染でも腰痛になることがあるんですね。

田邊史Dr.

はい。こちらも安静時の腰痛が特徴で、
特に発熱を伴う腰痛は注意が必要です。
骨や椎間板にばい菌が入り炎症が起きますので、かなり強い安静時の腰痛となります。
特に糖尿病の患者さんはバイ菌に対する抵抗力が弱いので注意が必要です。

二見いすず

腫瘍と感染。これらにともなって腰痛がある場合は、命にかかわるので本当に気をつけたほうがいいということですね。

田邊史Dr.

そうですね。

二見いすず

第1週目でもお伝えしたとおり、腰痛にもさまざまな腰痛があることが分かりました。おさらししますと、まずしばらく様子を見てもいい腰痛は、腰だけが痛い場合。そして早めの来院を勧める腰痛は、腰だけでなくベルトから下の脚やお尻にしびれや痛みがある場合ということでした。

田邊史Dr.

はい。そして来院をすすめる腰痛は、1つが椎間板ヘルニア、もう1つが腰部脊柱管狭窄症です。

二見いすず

椎間板ヘルニアになりやすいのは、40代や50代。ただ6、7割の人はコルセットと痛み止めでそのまま自然に良くなる場合もあるということでした。一方、腰部脊柱管狭窄症は60代や70代に多く、歩くときに痛みやしびれが出るということでしたね。

田邊史Dr.

はい、そうです。

二見いすず

単純に「腰が痛い」とひとくくりにしがちですが、腰痛にはさまざまな原因があり、緊急性のないものから、今日お伝えしたとおり命にかかわるものもあるので、正しい知識を持っておきたいですね。今月は整形外科疾患をテーマに鹿児島県医師会 田邊 史ドクターに貴重なお話をさせていただきました。田邊さん5週にわたりありがとうございました。

田邊史Dr.

ありがとうございました。